

1. 教育の責任

キャリア教育専門教員として、大手前大学のキャリア教育を担当し、本学の建学の精神「STUDY FOR LIFE（生涯にわたる 人生のための学び）」を体現できる人材の育成に取り組む。自分を磨き、社会とつながり、積極的に自己を打ち出していくことで、本学で学ぶ学生が人生・キャリアの目標を高く掲げ、人生とキャリアを切り拓く力を身に付けるよう、教育内容を計画・実施・確認・改善するとともに、学生の将来の進路を適切に選択できるようなキャリア・就職支援とキャリア教育を実施する。

2. 教育の理念

「人生は自ら切り拓くもの（Being is choosing）」「生きる勇氣（Courage to be）」「人生を生き抜き、人生を楽しむ（Enjoy & Survival）」をキーワードとし、自分の強みを見出し、弱みを受け入れて生きる肯定的な自己概念を持ち、地球・国家・地域レベルの様々な課題に取り組む社会的責任を身に付けた人材を育成することを目標とする。これがあってはじめて大学で学ぶ学問や大学生活で経験してきたことが自分の人生・キャリアに役立たせることができ、いわゆる就職活動の内容を充実させることができる。キャリア教育は、幸せな人生・キャリアを手に入れるための「オペレーションシステム（OS）」のようなものである。キャリア教育で学んだことを土台に、自分の興味関心のおもむくままに学問その他の活動に取り組むことで、その人のキャリアは花開くと信じる。

3. 教育の方法

【1】教育の目的と目標

（教員としての目標）

本来の専門分野である教育学（授業開発）の知見を活かしたキャリア教育授業の設計・開発に取り組む。とりわけ「目標の二重構造化」（世羅博昭）や ARCS モデル等、国語科教育学や教育工学の知見及び「対話のある授業」構成的グループエンカウンター（SGE）等のカウンセリング心理学の知見も積極的に取り入れる。

（学生に求めること、学生に対する期待）

キャリア教育の授業科目であるという性質上、「自己を語る」場面が多くなる。人様の人生を聞かせていただくというスタンスで授業に参加し、授業内で聞いた人の情報をほかの場所で開示しないこと（守秘義務）を求める。また、自分の想いや感情・考えを述べる・主張することをしないと、キャリア形成につながらない。授業中は積極的な発言を求めたい。

【2】教育実践

吉川が単独で担当する授業科目については、履修登録時に閲覧する「シラバス」のほかに、初回授業で「学修ガイド」を作成・配布している。こちらに、その日の学習内容・授業外課題・成績評価の基準等を記載する。

また授業では、適宜映像を作成して流したり、グループワークを課したりすることがある。その日の授業終了後、振り返りメールを発信し、出席者には授業の振り返りを、欠席者には授業外課題の取り組みを促している。

学習課題は、学修管理システムを利用して配布・提出されることがほとんどである。

4. 教育の成果

国際日本、建築&芸術、現代社会の3学部は、2025年度からキャリア教育科目の体系がリニューアルされた。今後学年進行でプログラムが整えられていく。今年度は「未来への扉を拓く：自己発見とキャリア探求」「就業体験のデザインと実践」が開講され、その教育プログラムが整えられた。

5. 改善への努力と今後の目標

個別の課題に対する学生へのフィードバックを強化したい。この授業で何を身に付ければよいのか、どういう表現をすれば、自分の持ち味や力を表現できるのか、それを学生が自覚できるのかを明確にすることを今後の目標とする。とりわけ「自己紹介エッセイ」を通じて、「自己肯定感（肯定的自己概念）」が向上するように、教育プログラムの改善に努めたい。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：吉川 正剛 作成日：2025年11月07日

【添付資料】

2025年度「就業体験のデザインと実践」及び「未来への扉を拓く：自己発見とキャリア探求」の学修ガイド